

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成23年5月20日)

述而第七

32 子曰く、文は吾猶人のごときこと莫からんや。躬君子を行うは、則ち吾未だ之を得ること有らず。

孔子が言うには、書物の上での学問について私は人並みに出来ないことはない。自分自身で君子らしい行いを実践することは、まだ出来ないでいる。

今の時代に当てはめてみれば、菅政権で学者の先生方が色々な会議に集まっています。机の上だけの学問であれば人並みに出来るけれども、現場での指導的な行いを実践することはなかなか出来ないでいる、といったところでしょう。正にその通りです。

孔子のように、「学問上で人並みに出来ないことはない」と言い切るのは、なかなか苦しいと感じます。今の学者は、私が知っている限りでは、化け物のような学者はいないと思っています。化け物のような学者とは、一昔前では安岡正篤先生です。安岡正篤先生の残した書斎を見ると、英語・フランス語・ドイツ語の資料を原文で読みこなして、原文で考え、原文で書き込みをしています。お弟子さんたちから見ても、とてもとても追いつけるようなレベルではありません。一人で辞書を作っていた白川静先生も、化け物ような方だと感じますし、加藤常賢先生もそうです。加藤先生は二松学舎の先生でしたが、講義中に抜き足で出て行こうとした学生に、「待て！」と先生が怒鳴ったところ、学生は金縛りのように動けなくなったまま授業が終わるまで動けなかったというエピソードがありました。化け物のような学者になると、迫力がまるで違うと感じます。そういう人たちの「人並み」とは、とても足元に及ばないと感じます。

いわんや、菅さんが最初の原発事故が起きた時にすぐ視察に行ったけれども、漏れ聞こえてくる話では、現地でどういうことが起きているか勉強しに行ったので、行かなくてもよかったのではないかと、行ったことで色々問題があったのではないかと囁かれているようです。

33 子曰く、聖と仁との若きは、則ち吾豈敢てせんや。抑も之を為して厭わず、人を誨えて倦まざるは、則ち爾云うと謂うべきのみと。公西華曰く、正に唯弟子学ぶこと能わざるなりと。

聖人は生まれながらの特別の人間と感じますので、人知を超えている人物です。仁人は、人間として到達し得る最高のレベル、徳が完璧なところまでいった人物です。

孔子が言うには、聖人と仁人の如きは、自分には思いも及ばないレベルである。しかし、それを学んで絶えまず実行して行き、他人を教えて飽きないし休まない。そういうことであるならば出来るであろう。

公西華という弟子が言いました。「我々弟子たちはそれが真似できない。だから孔子は孔子たる我々の師匠なのです。」

今風に考えてみましょう。一心不乱に学んで、他人を教えて飽きない。こういう先生が今の時代にいるのでしょうか。日本がどんどん落ちているのは、こういう先生が減ってきているからではないかと思います。

以前、川で溺れた生徒を教師が頭上に負ぶって、向こう岸に渡って、自分は息耐えたというニュースがありました。身を捨てて子供を教え育てていこうという教師が、昔は色々な形でおられたと思いますが、最近はあまり感じません。ただ、今回の震災では、古老の言い伝えに従って津波から子供たちを救ったという幼稚園や保育園の先生の話がいくつも出ています。例えば岩手県野田村の野田保育園では、先生たちが避難所まで子供たちを非難させて、「大津波の時は源平坂まで上れ」という言い伝えを思い出して、もっと高台まで避難させたことによって、子供たちが助かった。

今回私は宮城県から岩手県、そして青森県へ三陸沖をずっと北上して行きましたが、上に行けば行くほど、古老の言い伝えが結構活きていると感じました。関東に下りてくると、そういうものがなくなりますが、寒い方に行けば行くほど、素朴な素直な人が多いのかなと感じました。

34 し やまい へい 子の 疾 病なり。しろ いの 子路 禱らんことを請う。こ しいわ 子曰く、諸れ有りやと。こ あ 子路 対えて曰く、しろ こた いわ 之れ有り。こ あ るい いわ 誅に曰く、なんじ しょうか じんぎ いの 爾 を 上下の神祇に禱ると。しいわ きゅう いの ひさ 子曰く、丘 の禱ること久しと。

孔子が病氣になって、病状が重かった。子路が病氣の平癒を願って祈祷したいと、孔子の病床で許しを求めた。

孔子が「祈る道理があろうか」と聞いたので、子路が、「あります。君主から死者に対して贈る追悼の辞にも、『天地の神様にお祈りする』とあります。」と答えました。

孔子が「私はそういうことは日頃から祈っているのに、改めて祈ることはない」と言いました。

自分だけ助かろうとしたばたするな、と受け取れます。最近ではガンで亡くなる方が非常に多いですね。この間、田中好子さんが亡くなりました。最後の肉声を吹き込んだテープを聞きましたが、自分が亡くなる前でも他人を思いやっていました。

死に直面してどういう行動をとれるか。じたばたして何とか助かろうとするか。日本人は従容として死につく人たちが男女を問わず結構いますから、はたして自分はどうか……。疑問符を残して本日の話は終了です。